

近現代史(28) 帝国主義と列強の展開② 「イギリスの帝国主義」

(1)イギリス植民地帝国

①[1. 自由貿易帝国主義]

- ・ 自国産業の市場確保をめざして、世界各地に進出し、優勢な軍事力によって現地政権を屈服させ、自由貿易の論理にもとづき不平等な通商条約を押し付ける。インドにおけるシパーヒーの乱など現地での反乱などが起こると[2. 公式の帝国]として直接支配する。

②[2. 植民地不要論]

- ・ 国防費の削減を求め、植民地を領有することは余計な浪費と見なす考え方。
- ・ 白人移住者の多いカナダなどの植民地に対しては、現地の自治的な責任政府を通じて間接支配を行うようになった。→1867年、カナダが最初の[3. 自治領]となる。
- ・ 植民地不要論が唱えられたが、植民地化は進んでいった。

(2)イギリスの帝国主義

■背景：1870年代 世界的な不況・他の工業国との競争

○第二次[4. ディズレーリ]政権(1874~80)

- ・ 1875 [5. スエズ運河株]買収
- ・ 1878 露土戦争後のベルリン会議で[6. キプロス島]を獲得。トルコの領土保全に成功

インド航路を確保

○第二次[7. グラッドストーン]政権(1880~85)

- ・ 1882 [8. ウラービーの乱]を鎮圧して征服

○植民相[9. ジョゼフ=チェンバレン](任 1895~1903)

- ・ 植民地との連携を図る
 - ・ 植民地との連携を図り自治領とする →[10. オーストラリア連邦](1901)。
Cf. 五大自治領…カナダ、オーストラリアを含めて、ニュージーランド(1907)、ニューファンドランド(1907)、南アフリカ連邦(1910)。
- ・ 国内の社会問題の解決には植民地が必要と考える
 - ・ ケープ植民地の首相[11. セシル=ローズ]を支援。
 - ・ [12. 南アフリカ戦争]を引き起こす。

オランダ領ケープタウンは[13. ウィーン会議]でイギリスに譲渡。住民は北部に移住し[14. トランスヴァール共和国]と[15. オレンジ自由国]を建てたが金とダイヤが発見されたためイギリスが帝国主義侵略戦争を起こした。

(3)帝国主義イギリスの内政

①労働党の結成

- [16. フェビアン協会]や労働組合が労働者独自の政党を求める

知識人を中心にした社会主義団体。[17. バーナード=ショウ]や[18. ウェッブ夫妻]が活躍。その社会主義はフェビアン社会主義と呼ばれる。

- 1900年[19. 労働代表委員会]が結成 → 06年[20. 労働党]となる。

社会主義を目標とするが、ゆるやかな改革をつうじてその改革を目指す。

②自由党政権の時代：1905～1908、1908～1916

- 1911 [21. 国民保険法]制定…労働党の協力を得た自由党が社会改革を行い制定。
- " [22. 議会法]…下院の法案決定が上院に優先することを確定した法律。
対ドイツ海軍拡張費を得るため、[23. ロイド=ジョージ]蔵相が社会上層への税負担を増やすと、保守党が強い上院が抵抗したことを契機に制定された。

(4)イギリスとアイルランド問題

- 1914 [24. アイルランド自治法]が制定されるが・・・

↓

- 北アイルランド(イギリス人が多い) VS [25. シン=フェイン党](アイルランド独立を主張)

↓

- 政府、[26. 第一次世界大戦]勃発を口実に自治法の実施を延期

↓

- 1916 シン=フェイン党の独立強硬派が[27. イースター蜂起]を起こすも鎮圧される。

